

## トルコ：1週間物レポ金利を引き下げ

2015年1月21日

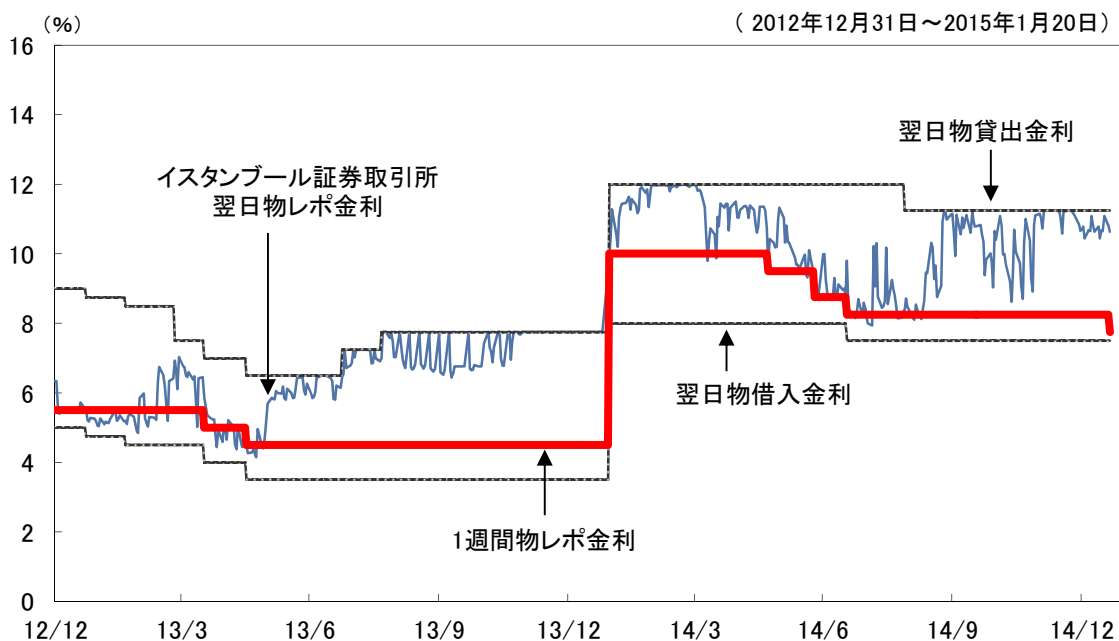
### <トルコの金融政策：1週間物レポ金利を0.50%ポイント引き下げ>

トルコ中央銀行は、1月20日（現地）に行われた金融政策決定会合で、1週間物レポ金利を0.50%ポイント引き下げ、7.75%としました。一方、翌日物貸出金利（コリドー上限金利）、翌日物借入金利（コリドー下限金利）については、それぞれ11.25%、7.50%で据え置きました。事前の市場予想では、据え置きと利下げで見方が分かれていましたが、今回利下げが見送られたとしても、2月には利下げが行なわれると考えられていました。

声明文では、これまでの引き締めの金融政策などに加えて、商品価格、特に原油価格の下落がインフレの鈍化に寄与するとし、今回の利下げを決定したとしています。

中央銀行は翌日物貸出金利を据え置くことで、翌日物金利を現状のコリドー上限付近に維持しつつ、1週間物レポ金利を引き下げることによって、利下げ実施への圧力を強めていたエルドアン大統領や政府高官に配慮したと考えられます。

#### 政策金利の推移



（今後の見通しについては次頁をご覧ください。）

#### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212（営業日の9:00～17:00）HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

## <今後の見通し>

中央銀行は、現在の金融政策姿勢において、年央にはインフレ率がターゲットとしている5%付近まで鈍化することを見込んでいる一方で、継続的なインフレ率の鈍化のためには慎重な政策運営が必要だとし、今後の金融政策はインフレの見通しの改善次第としています。

引き続き、米国の金融政策の正常化をめぐる思惑や、隣国シリアやイラクなどの地政学リスクの高まりなど、外部要因の影響を受ける可能性はあります。しかし、原油安がインフレや経常収支などのファンダメンタルズを改善するとの期待から資金が流入しやすい環境は当面続くと考えられます。相対的に高い金利水準であることや内需拡大による経済成長が期待できることから、引き続きトルコは魅力的な投資対象だと考えられます。

以上

### トルコ2年国債の金利推移



### トルコ・リラの為替推移



(出所:ブルームバーグ)

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。